

とんばんさん

西海市大瀬戸町

長崎の祭り

毎年四月に大瀬戸町で行われる

「とんばんさん」は、その年の

豊漁と豊作を願う琴平神社の大祭。

戸が見渡せる山の上にある琴平神社

は、一八八〇年に建立されたが、江戸

時代、この場所には海上の見張りのた

めの「遠見番所」が置かれていた。こ

の「遠見番所」に因んで、人々は神社

や祭りのことを、「とんばんさん」と呼

ぶようになつたという。

「とんばんさん」の行列はとてもユーモラスで、思わず吹き出してしまいうような楽しさがある。祭りがいつから始まつたのかは定かではないが、明治時代には今の行列の形ができていた

といふ。

祭り初日の「お下り」の日。琴平神社の境内にお囃子が響き渡つた。いよいよ祭りのスタートだ。本殿の前では太鼓と鉦の大きな音に合わせて、獅子舞が奉納される。息ぴったりの迫力ある演技だ。奉納を終えると、神輿行列は山を下り、人々が待つ住宅街へと歩みを進める。路地では、地域の人気が今か今かと待ちわびており、行列の先頭が見えると、歓声が上がつた。

行列は、道を清める筆持ちを先頭に、汐ぶり、獅子、行列太鼓など、約二百名から成る。中でも見どころは「挟み箱」と呼ばれる人々。これは大名行列で化粧箱を担いだ人々に扮して

いるものと思われ、行列には子どもと大人の挟み箱がそれぞれ登場する。子どもたちは白塗りの顔にカボチャやナスなどの野菜の絵を描き、かわいらしく歌を歌いながらまちを練り歩く。顔に山の幸を描くのは、豊作祈願のためだそうで、翌日に行われる「お上り」の日には、豊漁祈願のためにイセエビなどの海の幸が描かれるという。一生懸命に体の動きを合わせ、歌を歌う子どもたちの真剣な表情が沿道の人たちを惹きつける。

行列の最後を締めくくるのが、大人の挟み箱だ。白塗りの顔に野菜の絵を描いた顔は子どもたち同様だが、ユニークな歌詞に独特の節をつけて歌う姿は滑稽で、笑ってしまう。酒も入り、千鳥足で歩く姿もなんともいえず面白く、大歓声が沸き起る。

祭りに参加する子どもたちは、一ヵ月前から練習を始めるのだといふ。祭りが始まる前には、地域の大人から指導を受ける子どもたちの姿が見られ、地域の結束力が感じられた。祭りは人を育て、心を育てる。

大人も
子どもも
願うは
豊作と豊漁



白塗りの顔に野菜を描いた子どもたちは、やる気十分!

